

学校評価(共通項目)評価書

朝霞市立朝霞第九小学校

柱	No	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価者の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて、全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	学校教育目標達成に向け、校長の学校経営方針を全教職員に浸透させるために、年度当初に学校経営方針を作成・配付した。 校長の学校経営方針を念頭に置きながら、児童一人一人の実態を把握したうえで、校務分掌組織を活用して具体的な改善策を検討した。改善策実施にあたっては、職員会議や学年会等を通して共通理解・共通行動が徹底できるようにした。	A	校務分掌や職員会議・学年会等の活用により、校長の経営方針が全職員周知され、一丸となって取り組んでいる。 同学年の先生同士が協力し合っていると、ところをたびたび見かけた。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。 (※いじめの未然防止と早期発見、再発防止等の組織的な対応を含む)	A	来年度に向け、防災マニュアルの大幅な見直しをしている。特に水害を想定した実施可能な避難経路の確認ができています。避難訓練は、感染症拡大防止に考慮しながら実施することができた。新たに竜巻時の避難方法について訓練することができた。 いじめ早期発見、早期解決に尽力し、発見した場合は早急に事実を確認しながら解決をし、未然防止策を練ることができた。	A	児童のアンケート結果にも「学校が楽しい」と多くが回答している。 各種マニュアルの作成・見直し、訓練の実施等よく取り組んでいる。今後もいじめ対応もしっかり行いながら進めるとともに、これらのことを広く周知していくとよい。 日々の点検を怠ることなく、きめ細かく配慮されて
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	B	基礎学力を定着させるために、加配教員やあさか・スクールサポーター、低学年補助教員を活用した。また、3・6学年の算数で少人数指導やティームティーチングを実施した。 学力・学習状況調査の結果から国語は全体的に「読むこと」、算数は学年により課題のある分野が違う。	A	熱心な取り組みがされている。 配慮が必要な児童に自然と寄り添いながら指導している。 一人一人の学力の定着をどのように見届けているのかを具体的に知りたい。
	4	学校は、学力向上をめざし、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	課題研修において主題を「主体的に取り組む、学びを深めることができる児童の育成～ICT機器の効果的な活用～」とし、教科で学ぶべきことを十分に配慮しながらタブレット等を活用した授業改善を試みている。	A	ICT機器の効果的な活用による授業改善に取り組む、児童の学習理解力が向上してきている。さらに、探求心や向上心を持つことができる子を育ててほしい。 タブレットを活用した羽尾ブリッド授業等、急に導入された形態によく対応していたと思う。
規律ある態度の育成	5	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた「規律ある態度」を身に付けている。	B	規律ある態度に関して、どの点においても成果を上げている。あいさつについての児童の評価が比較的高いが、教職員から見るとまだまだである。どの場面でもどの様にするべきか指導を重ねていく必要がある。	A	あいさつは、声掛けを繰り返すことでできるようになり元気よくできるようになった。 児童一人一人の良さを引き出しながらも適切に対応してほしい。
	6	学校は、児童生徒の実態把握に基づき、規律ある態度の指導の工夫・改善に努めている。	A	生徒指導委員会や学年会において、児童全体の実態分析を行い、それに基づいた生活目標を設定して組織で指導にあたってきた。月ごとの生活目標については、月初めの全校朝会で、生徒指導委員会の担当職員が指導した。また、生活目標を、廊下や階段、教室等に継続して掲示することにより、児童が継続して意識できるように工夫した。	A	実態分析を行い、組織的・計画的に指導にあたっている。 月目標等は廊下にも掲示され、児童が理解しやすくなっている。
健康・体力向上	7	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	A	感染症拡大防止のため、活動の制限があり例年通りの十分な取り組みができなかったが、本校は広い校庭を有し、児童は運動に意欲的に取り組んでいる。休み時間には、担任や補助教員も児童とともに活動していることが多い。一方で、教室に残りがちな児童もいる。今後は、児童一人一人へ配慮しながら、さらに意欲的に取り組める学習の場づくりの工夫や外遊びの奨励などをしていく。	A	広い校庭での外遊びに意欲的に取り組めるよう、教職員も一緒に活動している。 苦手意識や不安を持つ児童に自信を持ち、運動好きになる言葉かけを継続的にしてほしい。
	8	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	B	昨年度できなかった、運動を得意としない児童を対象の「ボール投げ教室」や「鉄棒教室」、「跳び箱教室」等の運動教室を中休みに実施した。 また、持久走大会は今年度もコロナ対応持久走記録会として「20mシャトルラン」の記録を測定した。春に行った結果と比較し、自分の体力の実態や普段の取組の振り返りをすることができた。	A	体力向上のための様々な方策をとっている。 コロナ禍でもできる取り組みを工夫、継続してほしい。持久走大会を再開してほしい。
連携	9	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学力や体力の向上に生かしている。	B	感染症拡大防止のため、今年度も十分な連携はできなかったが、学校応援団には学習支援(家庭科のミンなど)、環境整備(除草作業、花の苗植え)などをしていただき、成果を上げることができた。また、学校保護者連絡会が、内容を工夫しながら活動し、学校と家庭とのパイプ役となっていた。	A	コロナ禍で取組の制限があった。取り組みを工夫し、連携を強化してほしい。 学校応援団・学校保護者連絡会の方たちの協力が学校運営の一翼を担っている。
	10	保護者や地域は、学校と協力し合い、児童生徒の安全指導・健全育成を推進している。	B	児童見守り隊2名の方が、1年を通して児童の登下校の見守りをしてしてくれている。特に、遅れて登校してくる児童や不審者などの情報交換をすることができ、児童の安全確保に役立っている。 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、グループではなく、保護者一人一人が当番表に従って、登下校時や放課後に地域を見回り、児童の安全確保をしていく。	A	コロナ禍で取組の制限があった。取り組みを工夫し、連携を強化してほしい。

注:「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入

Aは4点、Bは3点、Cは2点、Dは1点で換算した平均値から、A:3.4以上、B:2.6以上、C:2.0以上、D:2.0未満